短 報

北海道におけるトワダオオカの
採集記録佐々木 均¹⁾ 楠井 善久²⁾ 西 島 浩³⁾
長谷川 勉⁴⁾ 金杉 隆雄¹⁾¹⁾ 酪農学園大学・北海道文理科学短期大学
応用昆虫学研究室

(〒069 北海道江別市文京台緑町 582-1)

²⁾ 厚生省長崎検疫所

(〒850 長崎市戸町 3-913-1)

³⁾ 北海道昆虫自然史研究所

(〒066 北海道千歳市白樺 6-9-3)

⁴⁾ ヤシマ産業

(〒020 盛岡市加賀野 2-2-6)

(受領：1994年8月1日；登載決定：1994年11月1日)

On the four newly collection data
of *Toxorhynchites towadensis*
(Matsumura, 1916) in Hokkaido,
Japan (Diptera : Culicidae)Hitoshi SASAKI,¹⁾ Yoshihisa KUSUI,²⁾
Yutaka NISHIJIMA,³⁾ Tsutomu HASEGAWA⁴⁾
and Takao KANASUGI¹⁾¹⁾ Laboratory of Applied Entomology, Raku-
no Gakuen University and Hokkaido
College of Arts and Sciences,
Ebetsu 069, Japan²⁾ Nagasaki Quarantin Station,
Nagasaki 850, Japan³⁾ Laboratory of Insect Natural History in
Hokkaido, Chitose 066, Japan⁴⁾ Yashima Co., Morioka 020, JapanKey words: *Toxorhynchites towadensis*, distri-
bution, Hokkaido.

オオカ亜科に属する昆虫としてはわが国では4種が知られている(大野, 1989)が、これらの種は、海外に分布する本亜科に属する種とともに、カ科の他の亜科に属する種と異なり、雌成虫であっても人畜に対して吸血性を持たず、雌雄共に昼間、訪花吸蜜するのみである(佐々ら, 1976)。このように成虫が吸血性を有しないことから衛生害虫としての直接的な意味は低いと考えられているが、幼虫は、他のカやユスリカ類など、生息場所を

Fig. 1 *Toxorhynchites towadensis*.Table 1 The places where *T. towadensis* were
hitherto collected in Hokkaido.

Place	Reference
Teshikaga*	Endo, 1960
Sapporo, Maruyama	Takahasi, 1946
Tomari, Moiwa	Sato and Takahashi, 1974
Kutchan, Asahigaoka	Sato and Akamatsu, 1979
Kuromatsunai, Utsai	Sato and Akamatsu, 1974

* This data is considered to be doubt and must
be checked again by Ohno (1989).

同じにする他の衛生害虫の幼虫を捕食し、これらの有力な天敵の一つとして数えられている(塚本・堀尾, 1982)。

トワダオオカ(*Toxorhynchites towadensis* (Matsumura, 1916)) (Fig. 1) は、この双翅目カ科、オオカ亜科に属する昆虫で、体長は10mm内外と他のカと比較して際立って大きく、かつ体が青藍光沢の鱗片に覆われていてとても美しい種としても知られている。また、本種幼虫の発生源として大木の樹洞等が必要なことから、本種の生息は樹洞を生じるような古木・大木が生い茂るような豊かな森林を示す指標となり、環境指標生物としても注目されてきている(堀尾・塚本, 1986)。

本種の日本における分布は広く、北海道から沖縄までの広い範囲に及んでいる。大野(1989)によると、北海道ではこれまでに Table 1 に示す5地点から採集されたと報告されているが、弟子屈町の記録は、再検討の余地があるとされ、確実なのはその他の4地点と考えられている。

著者らはこれまでに、そこに示されていない北海道内4地点から本種を採集しているので本種の新たな分布地点として報告する。

新たに追加する地点 (Table 2) を見ると、奥尻島は

Table 2 Newly collecting data of *T. towadensis*.

	Date	Place	Person
1 ♂	14 VI 1986	Samani-cho, Horoman	T. Hasegawa
1 ♂	28 VI 1986	Okushiri-cho, Shiokamakawa	Y. Kusui & H. Sasaki
1 ♀	28 VI 1992	Fukushima-cho, Iwabe	Y. Nishijima
1 ♀	7 VII 1993	Ebetsu-shi, Bunkyoudai	H. Sasaki & T. Kanasugi

Fig. 2 Map of Hokkaido. ○ shows the place where *T. towadensis* was hitherto collected and ■ shows the newly collected places.

北海道に付属する島として、福島町は北海道本島の最南端地点として、様似町と江別市は確実な記録として北海道の最東端、最北端の地点として、それぞれ初めての記

録となる。

また、採集時の状況は、様似町では、幌満溪谷を海岸線より 5～6 km 入った道端で訪花吸蜜中であつた。奥尻島では、塩釜川の支流のやや開けた河原に面した林縁の胸高直径 20 cm のカエデの樹幹の地上約 1.5 m の高さに休息していた。また、福島町では、針広混交林内を飛翔中で、江別市では、酪農学園大学構内の、背後に隣接する野幌森林公園との境界付近の笹の上に休息していた。

偶然の機会に採集されることの多い本種であるが、今後も採集データを蓄積して、本種の北海道における分布を明らかにしていく必要があるだろう。

引用文献

- 堀尾政博，塚本増久（1986）：日本産オオカの生態。昆虫タリウム，**23**(2)：36-42。
 大野正男（1989）：トワダオオカの分布総説。日本の生物，**3**(12)：48-51。
 佐々 学，栗原 毅，上村 清（1976）：蚊の科学，312 pp.，北隆館，東京。
 塚本増久，堀尾政博（1982）：蚊の天敵としての蚊：オオカ。遺伝，**36**(8)：49-58。

Summary

Toxorhynchites towadensis (Matsumura, 1916) is well known to have peculiar bionomics and to be a bio-index species of the rich forest. Although this species has a wide distribution in Japan, there are only 5 points of distribution hitherto known in Hokkaido. The authors collected this species at another 4 localities in Hokkaido. Of these localities, Okushiri Island is new and Fukushima, Samani and Ebetsu are the most southern, eastern and northern distribution records of this species in Hokkaido respectively.